

岡山県感染症週報

2014 年 第 31 週 (7 月 28 日～8 月 3 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』を発令しました。(8 月 1 日)

◆2014 年 第 31 週 (7/28～8/3) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 30 週 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (20 代 男)
 第 31 週 2 類感染症 結核 4 名 (20 代 男 1 名、70 代 男 2 名、80 代 男 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 6 名 (O103: 幼児 女 1 名、30 代 男 1 名、
 O157: 幼児 女 1 名、10 代 女 1 名、30 代 女 1 名、60 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

○ヘルパンギーナは、県全体で 129 名 (定点あたり 1.70 → 2.39 人) の報告があり、前週より増加しました。

【第 32 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O26: 幼児 女) の発生がありました。(8 月 4 日)

【お知らせ】

○次週、2014 年第 32 週 (8/4～8/10) の感染症週報は、8 月 22 日 (金) にホームページに掲載いたします。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 31 週に 6 名の報告があり、2014 年累計報告数は 46 名となりました。岡山県では、7 月 9 日「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っていましたが、7 月の患者数が 30 名となったことから、8 月 1 日「**腸管出血性大腸菌感染症 警報**」を県下全域に発令し、より一層の注意を呼びかけています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症 警報 発令中!**』をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**は、県全体で 129 名 (定点あたり 1.70 → 2.39 人) の報告があり、前週より増加しました。全国の第 30 週発生状況は、定点あたり 4.12 人であり前週より減少しましたが、4 都県で警報基準値の 6 人を超える流行となっています。この感染症は、例年 8 月頃まで流行がみられますので、今後も県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めてください。詳しくは『**今週の注目感染症**』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	⬆	★
咽頭結膜熱	⬆	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬆	★★
感染性胃腸炎	⬆	★★	水痘	➡	★
手足口病	⬆	★	伝染性紅斑	⬆	
突発性発疹	⬆	★	百日咳	⬆	
ヘルパンギーナ	⬆	★★	流行性耳下腺炎	⬆	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	⬆	★
細菌性髄膜炎	⬆	★	無菌性髄膜炎	⬆	★
マイコプラズマ肺炎	⬆		クラミジア肺炎	➡	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡				

【記号の説明】 前週からの推移: ⬇ : 2 倍以上の減少 ⬇ : 1.1～2 倍未満の減少 ➡ : 1.1 未満の増減
 ➡ : 1.1～2 倍未満の増加 ⬆ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★★: 多い ★★★★★★: 非常に多い
 今週の流行状況を過去 5 年間で比較し、5 段階で表示しています。
 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

**夏休み期間中に海外へ渡航する方向けの感染症情報が、
厚生労働省のホームページからご覧いただけます。**

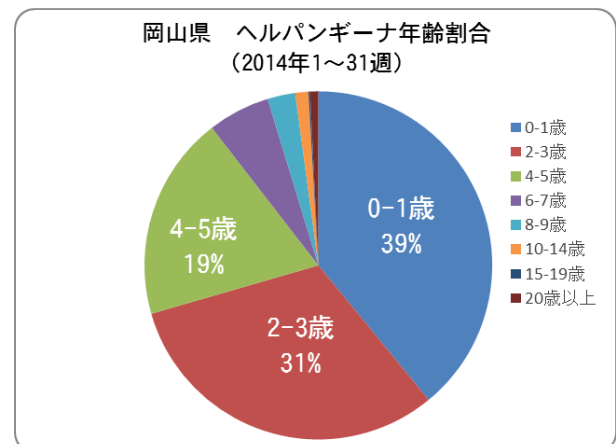
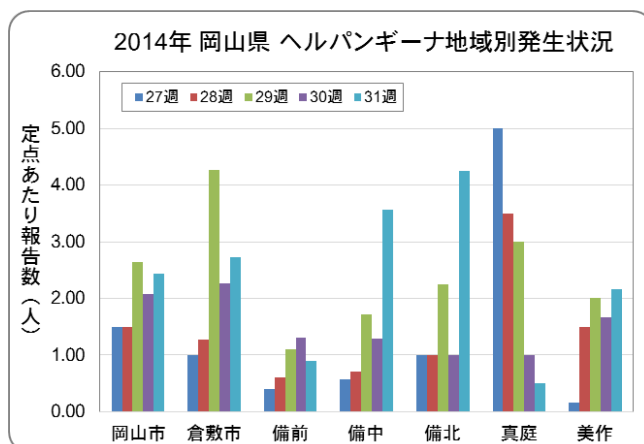
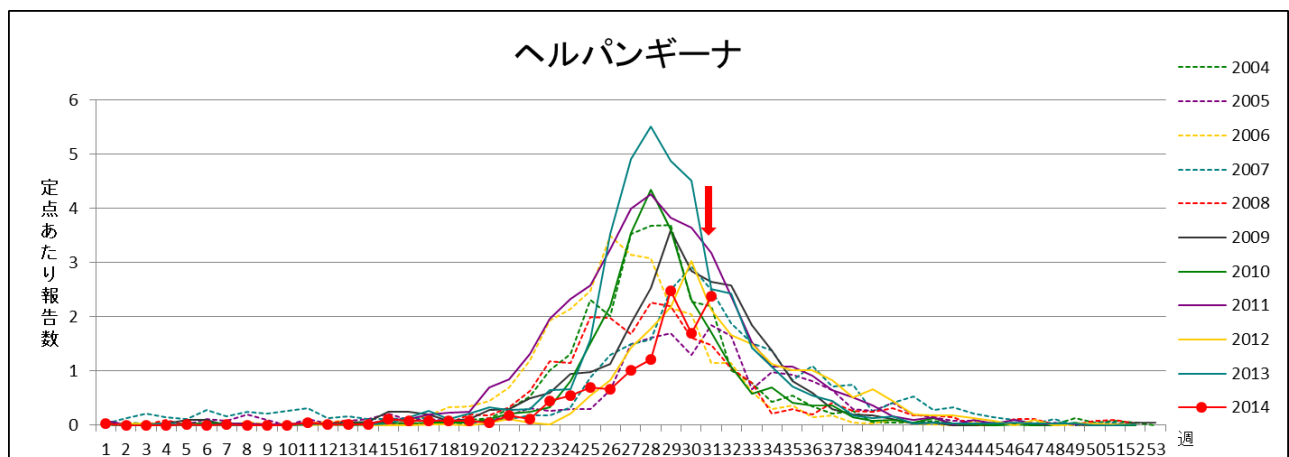
海外には、日本国内に通常存在しない感染症があります。安全で快適な海外旅行にするためには、出発前にあらかじめ渡航先の衛生状況や感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不調があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

- ☆ [夏休み期間中における海外での感染症予防について](#)（厚生労働省ホームページ）
- ☆ [夏休みに海外へ渡航される皆さまへ！](#)（厚生労働省検疫所ホームページ）

今週の注目感染症 ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的なものです。A群コクサッキーウイルスなどが原因となります。毎年、5月頃より患者が増加し始め、7月頃にピークとなる傾向があります。

【岡山県の発生状況】

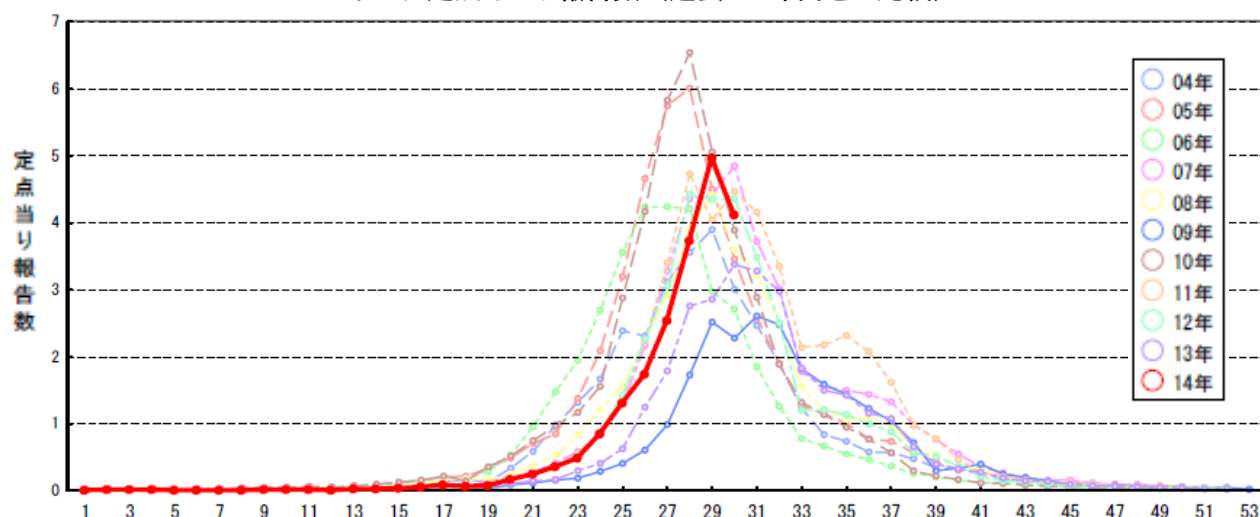


ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は、県全体で129名（定点あたり1.70→2.39人）の報告があり、前週より増加しました。地域別では、備北地域（1.00→4.25人）及び備中地域（1.29→3.57人）で前週より大きく増加しています。第31週までの年齢別累計では、0-3歳の乳幼児が全体の70%を占めています。

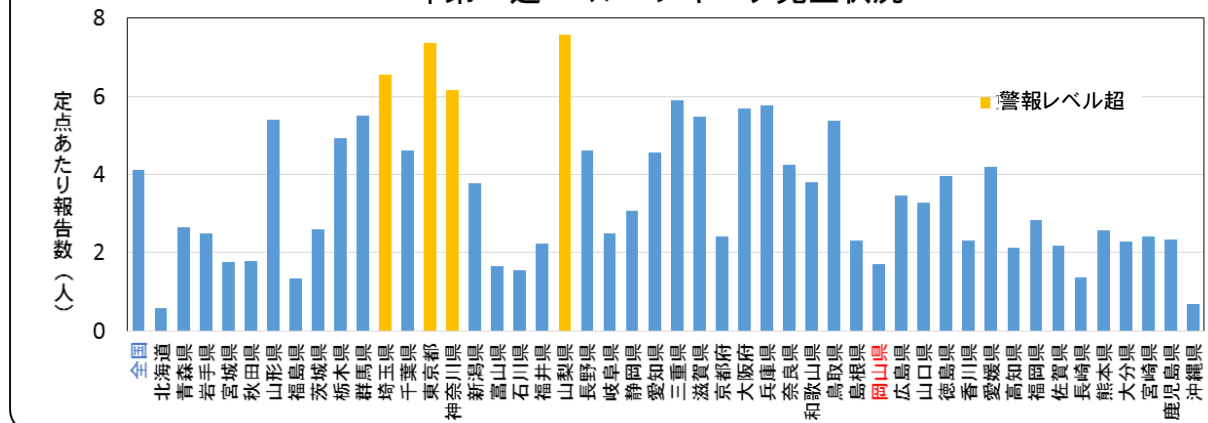
例年、8月頃まで流行がみられますので、今後の発生状況に注意するとともに、患者との接触を避け、外から帰った後にうがいをする、食事の前やトイレの後などに手洗いを行うなど、感染予防に努めましょう。

【全国の発生状況】

ヘルパンギーナ定点あたり報告数（過去 10 年間との比較）



2014年第30週 ヘルパンギーナ発生状況



全国では、定点あたり報告数が 10 週連続で増加していましたが、第 30 週、定点あたり 4.12 人となり減少に転じました。都道府県別では、山梨県（7.58 人）、東京都（7.36 人）、埼玉県（6.54 人）の順で多くなっており、4 都県で警報基準値の 6 人を超える流行となっています。

[国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2014 年第 30 週](#)

【主な感染経路】

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します（飛沫感染）。また、便の中に排出されたウイルスが、手などを介し口に入って感染します（経口感染）。

【症 状】

症状は、突然の発熱につづいてのどが痛くなり、口腔内に直径 1～5mm ほどの赤い小水疱が、多数出現するのが特徴です。小水疱は、やがて破れて痛みを伴います。通常、2～4 日で軽快し予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口腔内の痛みのため、食事や水分を十分にとれず脱水症状を呈することがあります。まれに、無菌性髄膜炎や急性心筋炎などを合併することもあるため、お子さんの状態に注意し、頭痛や嘔吐がみられる際には、早めに医療機関を受診してください。

【予 防】

患者との密接な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を行い、オムツや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を使用するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4 週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、保育園、幼稚園、学校などの集団生活では注意が必要です。

[国立感染症研究所ホームページ ヘルパンギーナとは](#)

保健所別報告患者数 2014年 31週 (2014/07/28～2014/08/03)

2014年8月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	20	0.37	4	0.29	2	0.18	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	14	1.00	5	0.45	1	0.10	3	0.43	2	0.50	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	253	4.69	63	4.50	60	5.45	44	4.40	11	1.57	27	6.75	3	1.50	45	7.50
水痘	29	0.54	7	0.50	5	0.45	2	0.20	4	0.57	—	—	4	2.00	7	1.17
手足口病	9	0.17	6	0.43	1	0.09	—	—	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	23	0.43	10	0.71	6	0.55	4	0.40	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	129	2.39	34	2.43	30	2.73	9	0.90	25	3.57	17	4.25	1	0.50	13	2.17
流行性耳下腺炎	9	0.17	4	0.29	—	—	2	0.20	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	2	0.40	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 31週 (2014/07/28～2014/08/03)

2014年8月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	20	0.37	4	0.29	2	0.18	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	14	1.00	5	0.45	1	0.10	3	0.43	2	0.50	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	253	4.69	63	4.50	60	5.45	44	4.40	11	1.57	27	6.75	3	1.50	45	7.50
水痘	29	0.54	7	0.50	5	0.45	2	0.20	4	0.57	—	—	4	2.00	7	1.17
手足口病	9	0.17	6	0.43	1	0.09	—	—	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	129	2.39	34	2.43	30	2.73	9	0.90	25	3.57	17	4.25	1	0.50	13	2.17
流行性耳下腺炎	9	0.17	4	0.29	—	—	2	0.20	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル 2、レベル 3 に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第31週 2014/07/28～2014/08/03)

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	20	-	3	6	2	1	1	3	2	1	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	-	1	2	3	5	2	7	2	2	2	2	3	-
感染性胃腸炎	253	7	22	36	36	20	23	17	6	6	5	11	26	9
水痘	29	-	-	5	4	2	5	7	3	2	1	-	-	-
手足口病	9	-	1	1	1	2	2	1	-	1	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	2	5	12	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	129	-	15	36	24	15	10	9	4	6	3	2	5	-
流行性耳下腺炎	9	-	-	-	-	1	3	1	1	1	1	1	-	-

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

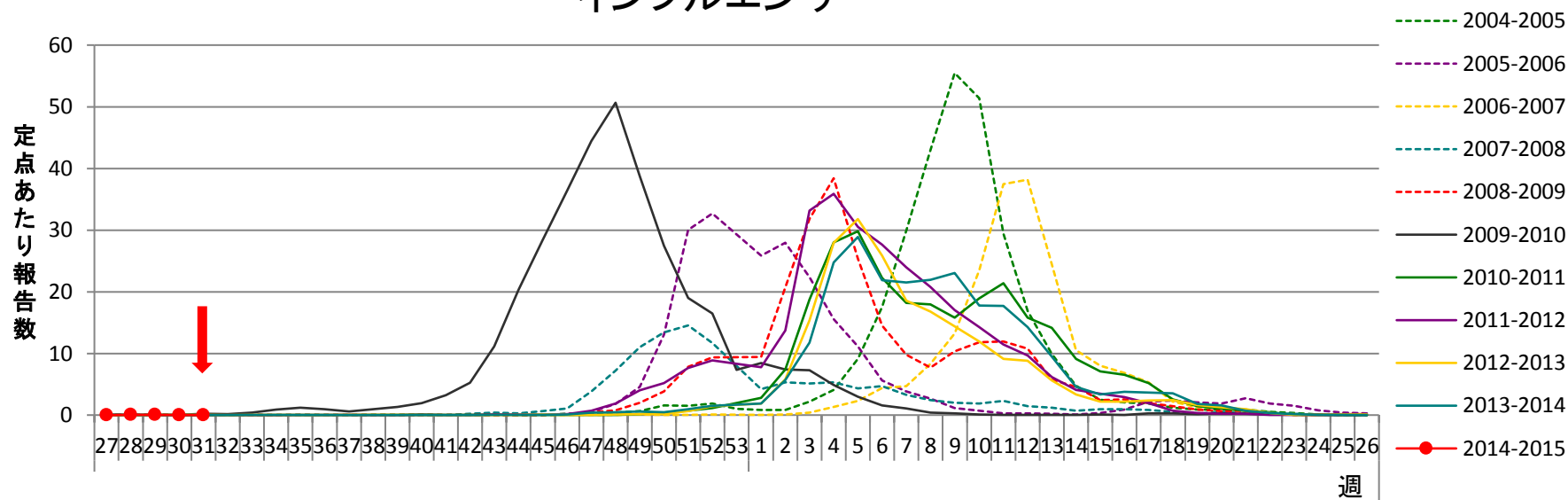
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

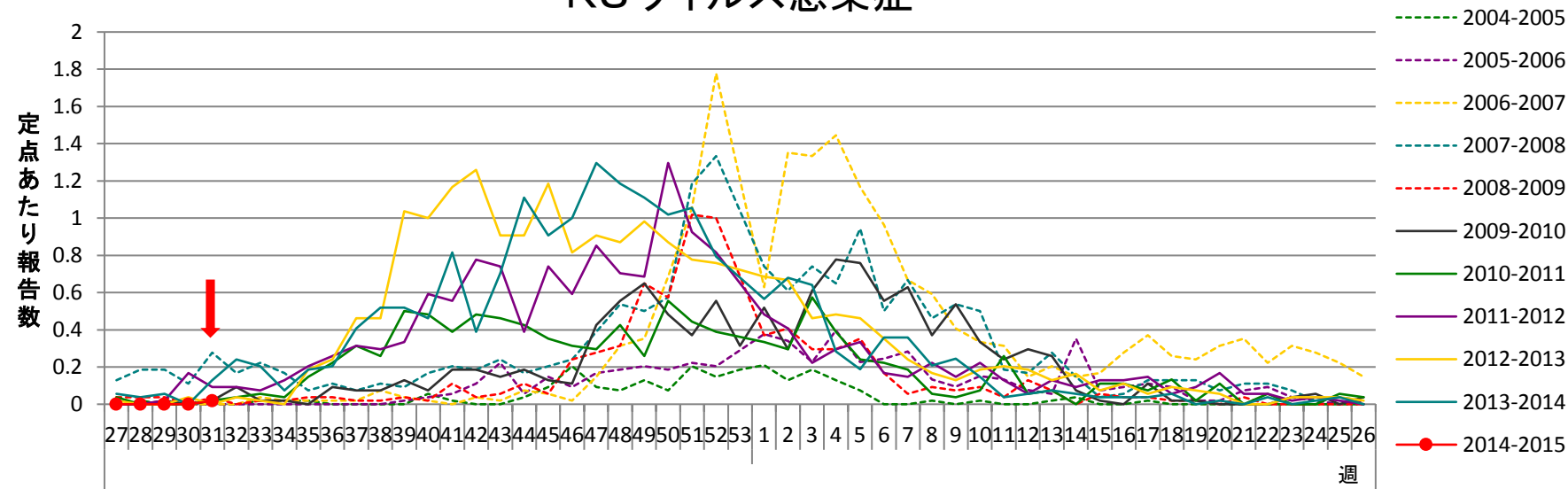
2014 年 31 週

分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014			2013	疾病名	2014			2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週		累計	昨年		
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-		痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ベスト	-	-	-		マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-			-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	198	358		ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-			-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-		腸管出血性大腸菌感染症	6	46	87	
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-			-	-	-	
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-		A型肝炎	-	6	5	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-		オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-		キャサナル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-		コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	2		腎症候性出血熱	-	-	-	
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-		炭疽	-	-	-	
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	-		デング熱	-	-	-	
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-		ニパウイルス感染症	-	-	-	
	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	1	2		ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-		ブルセラ症	-	-	-	
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-		発しんチフス	-	-	-	
	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	1		野兔病	-	-	-	
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-		リフトバレー熱	-	-	-	
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	18	24		レプトスピラ症	-	-	2	
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-			-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	5	20	ウイルス性肝炎*3	-	5	13		急性脳炎*4	-	8	5
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	4		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	3	
後天性免疫不全症候群		-	11	18	ジアルジア症	-	-	1		侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	1	
侵襲性髄膜炎菌感染症		-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	15	20		先天性風しん症候群	-	-	-	
梅毒		-	10	8	破傷風	-	-	4		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	1	1	風しん	-	2	76		麻しん	-	6	3	

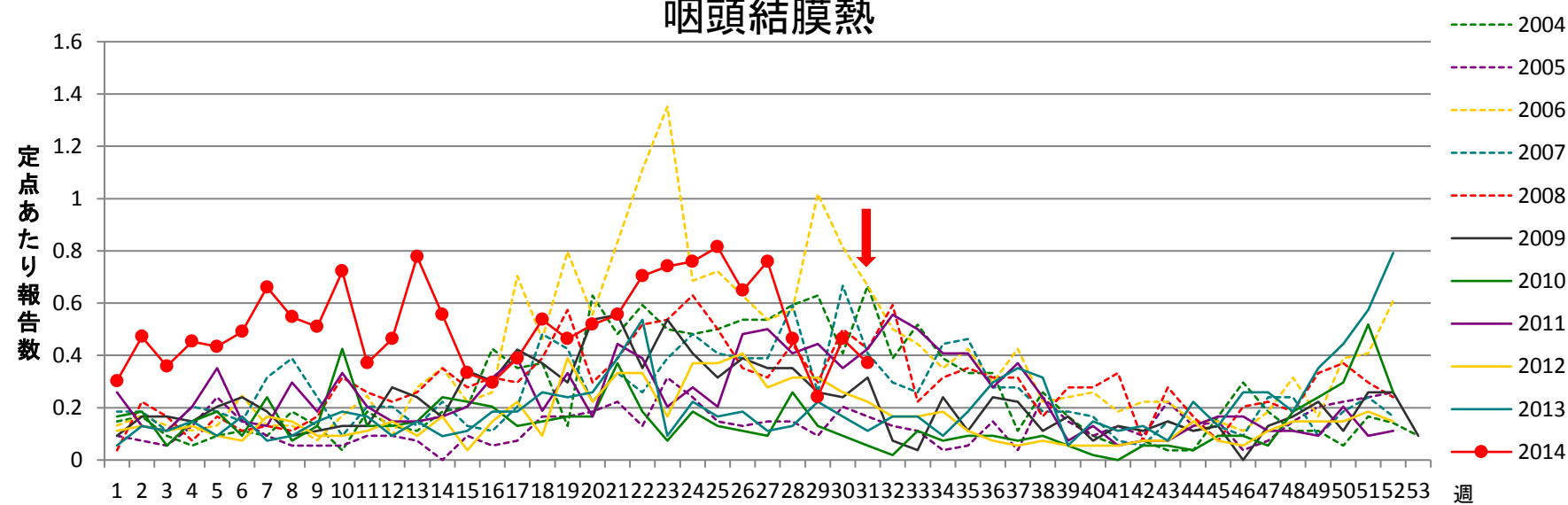
インフルエンザ



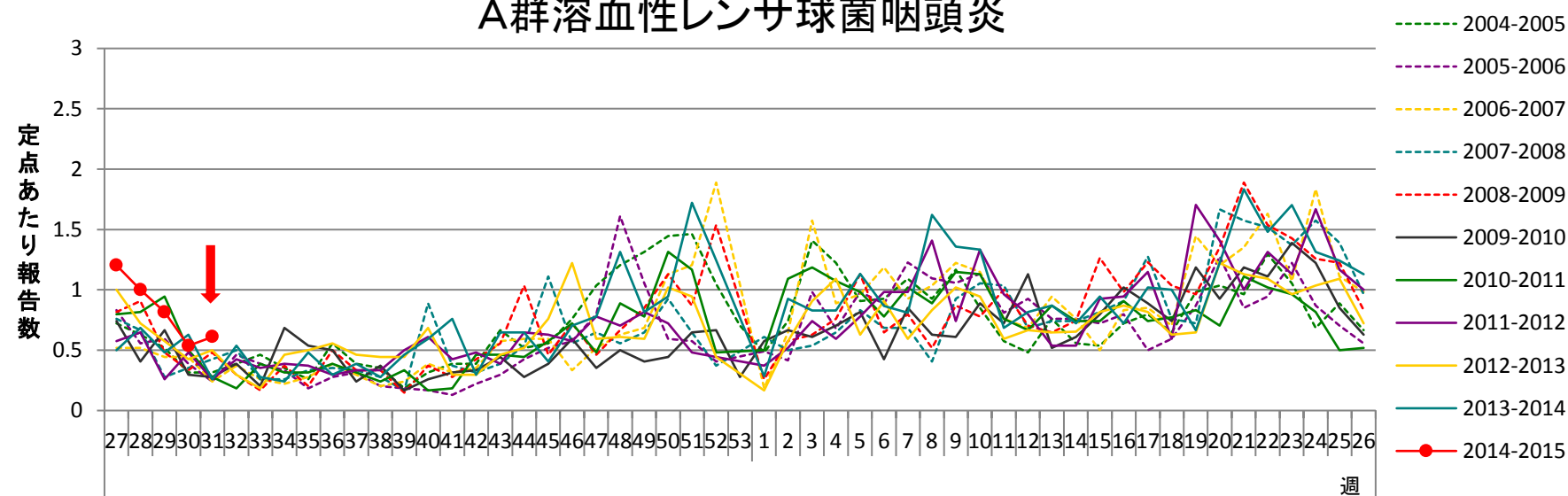
RSウイルス感染症



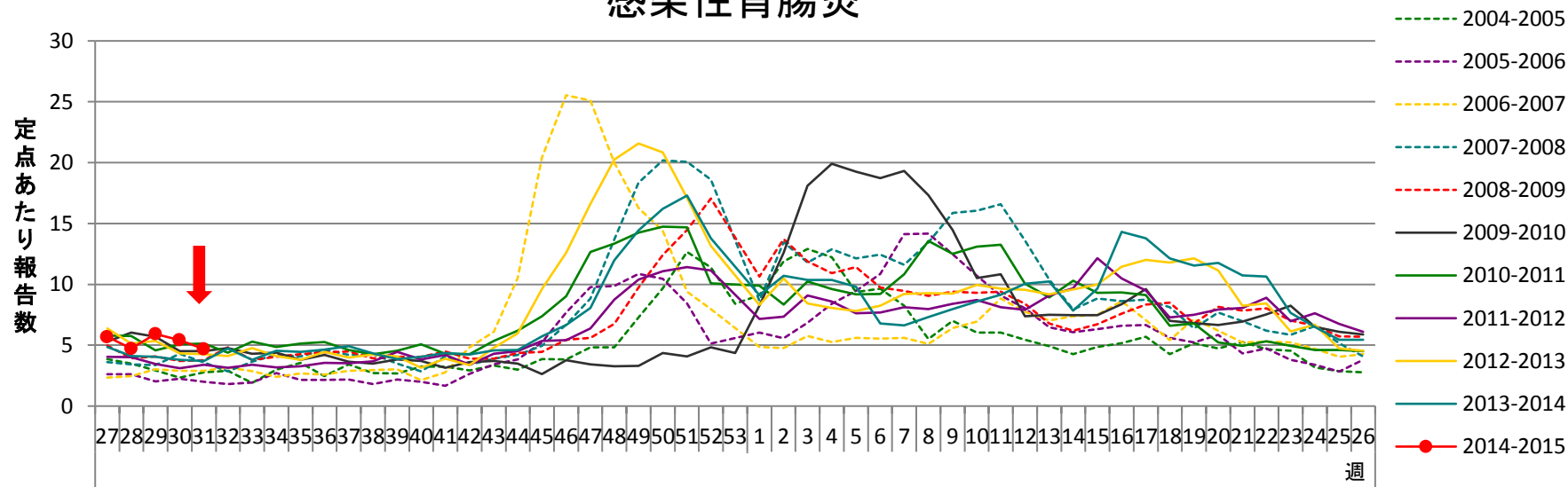
咽頭結膜熱



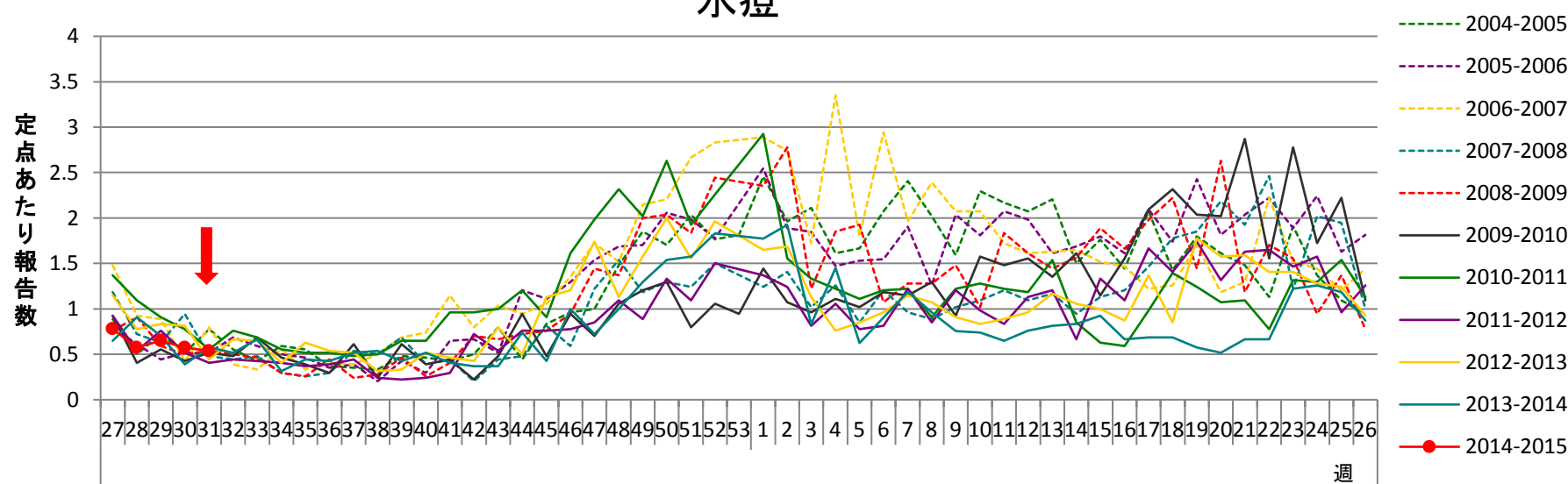
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



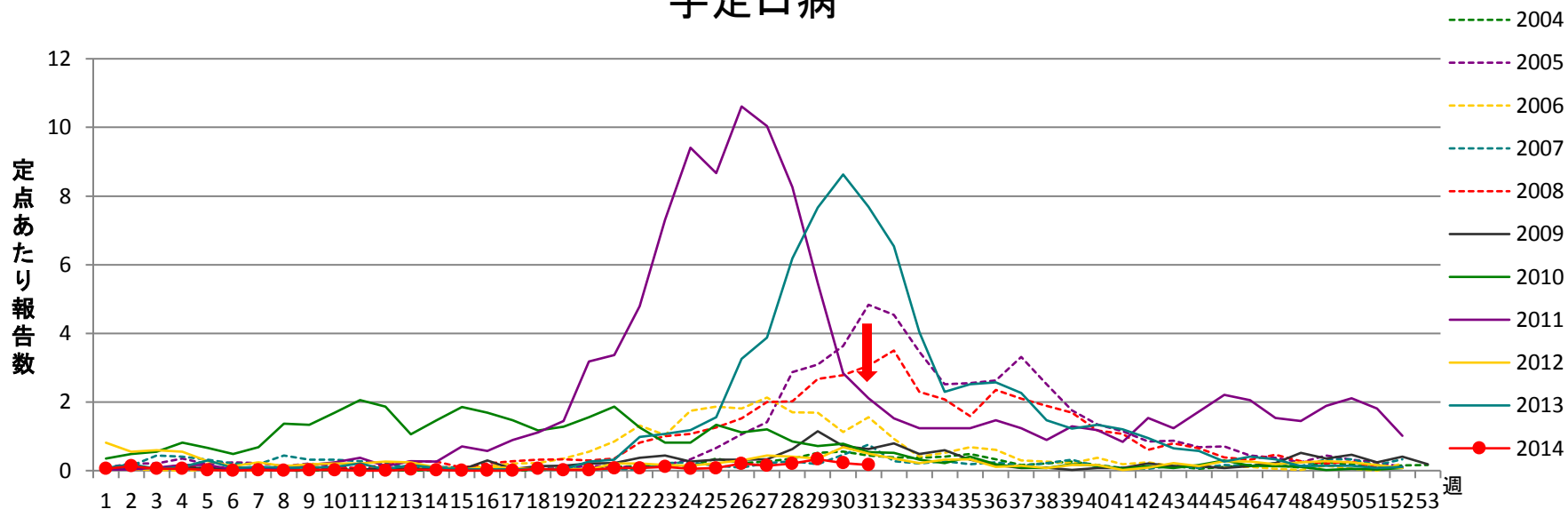
感染性胃腸炎



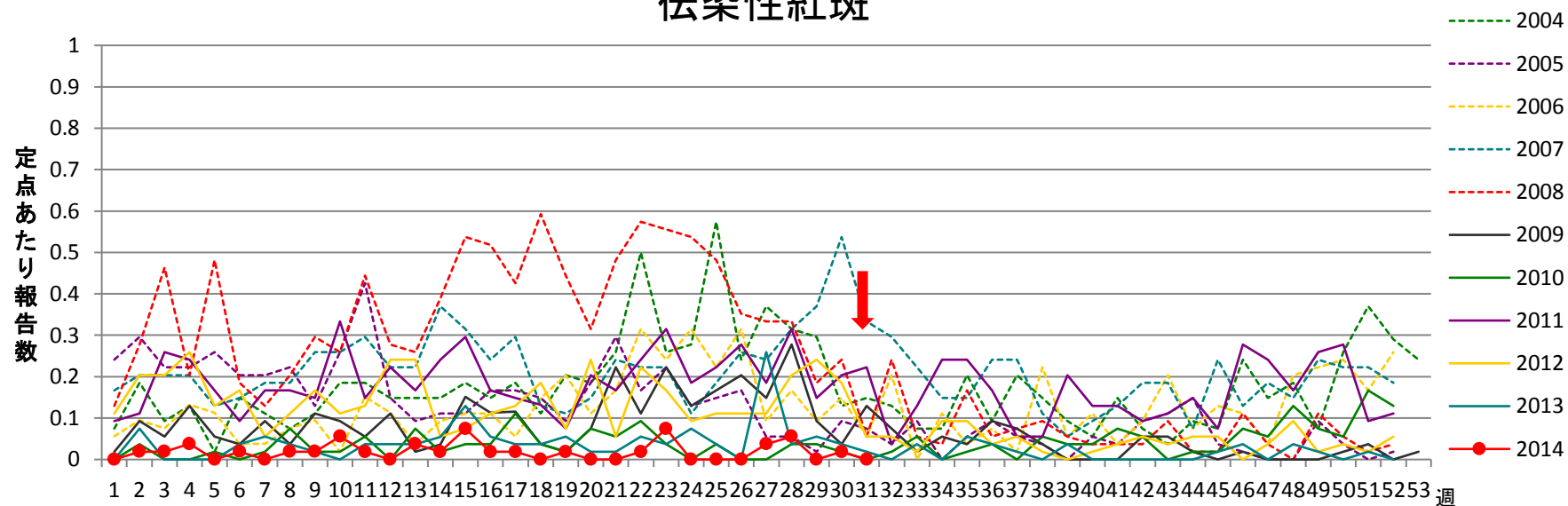
水痘



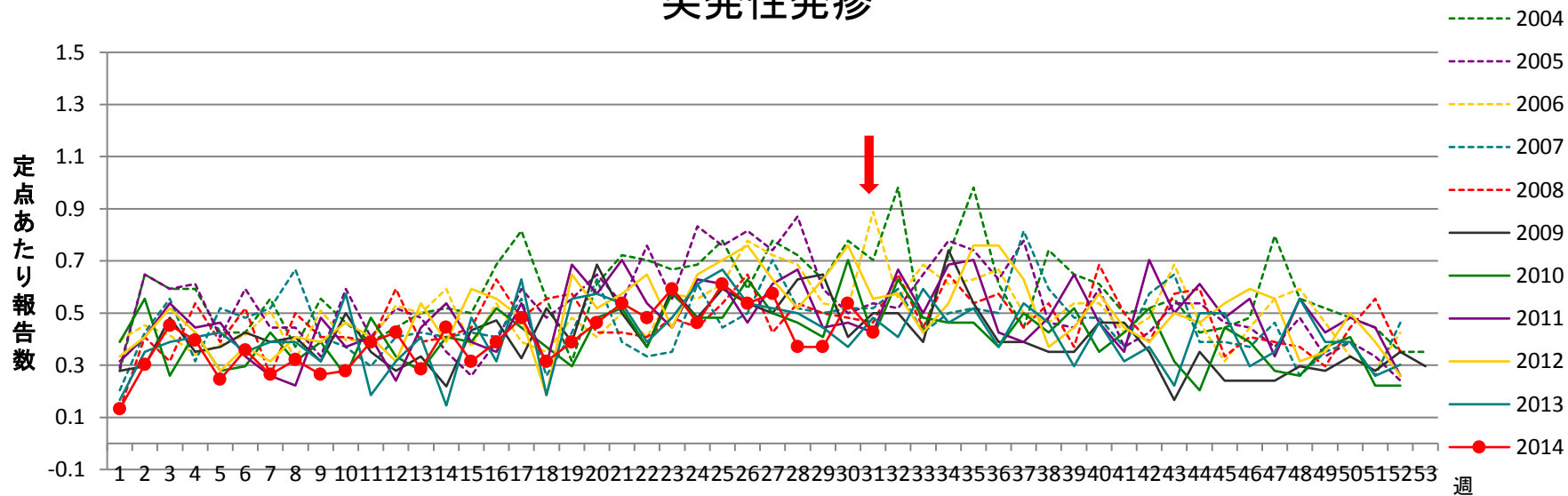
手足口病



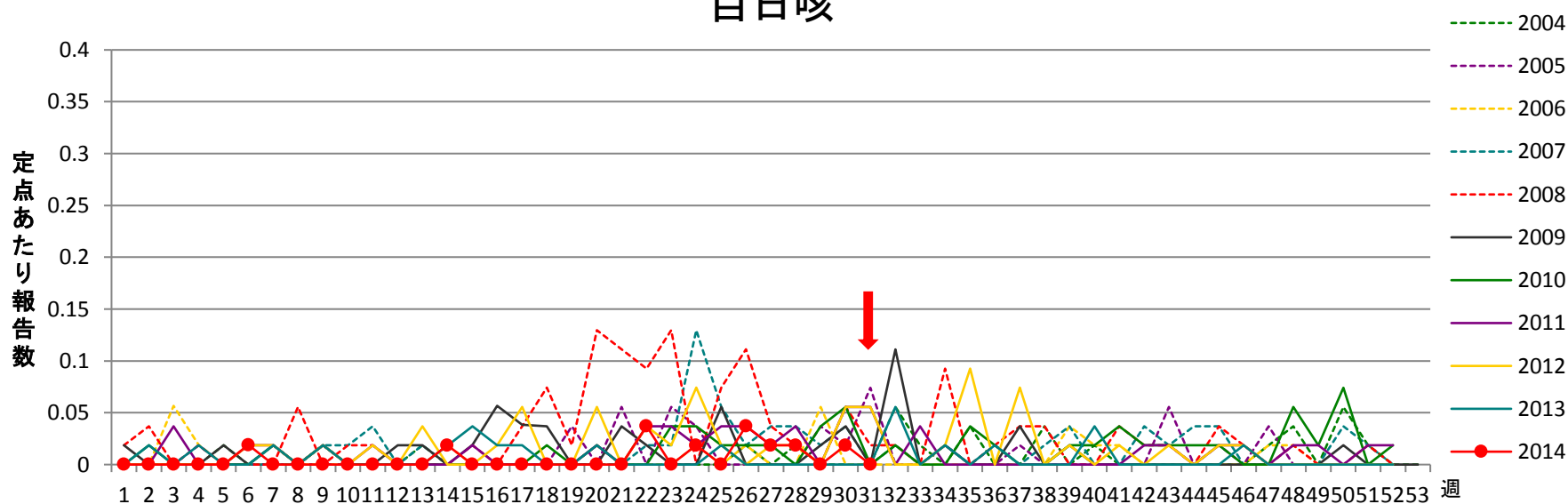
伝染性紅斑



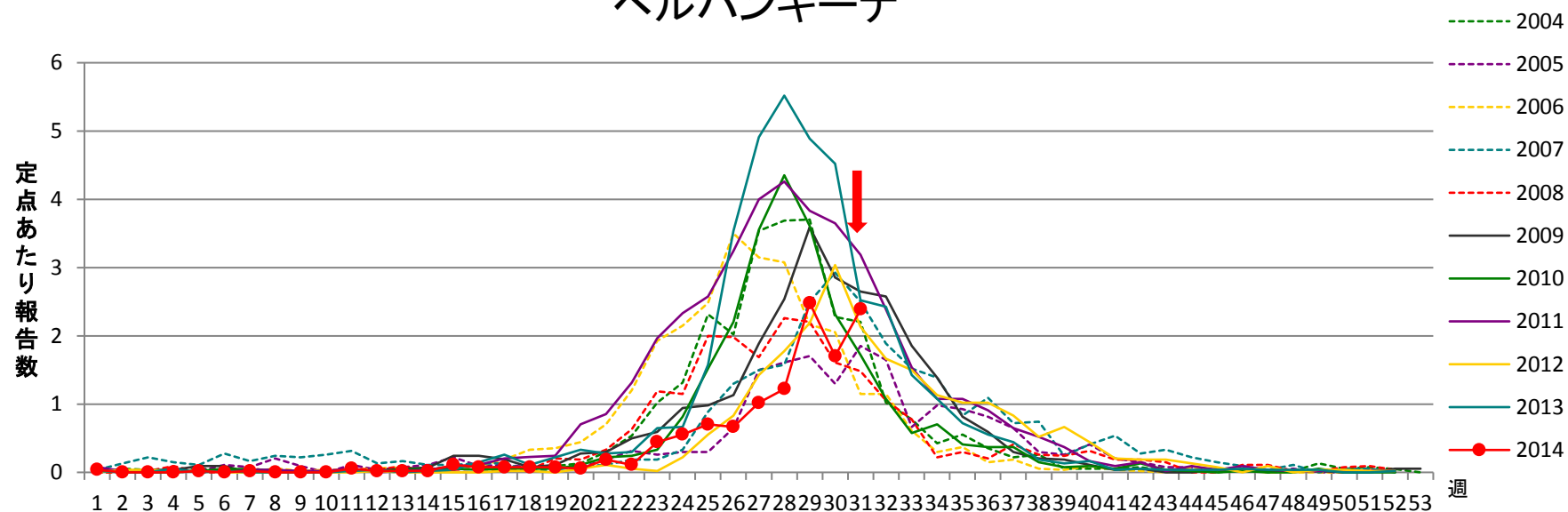
突発性発疹



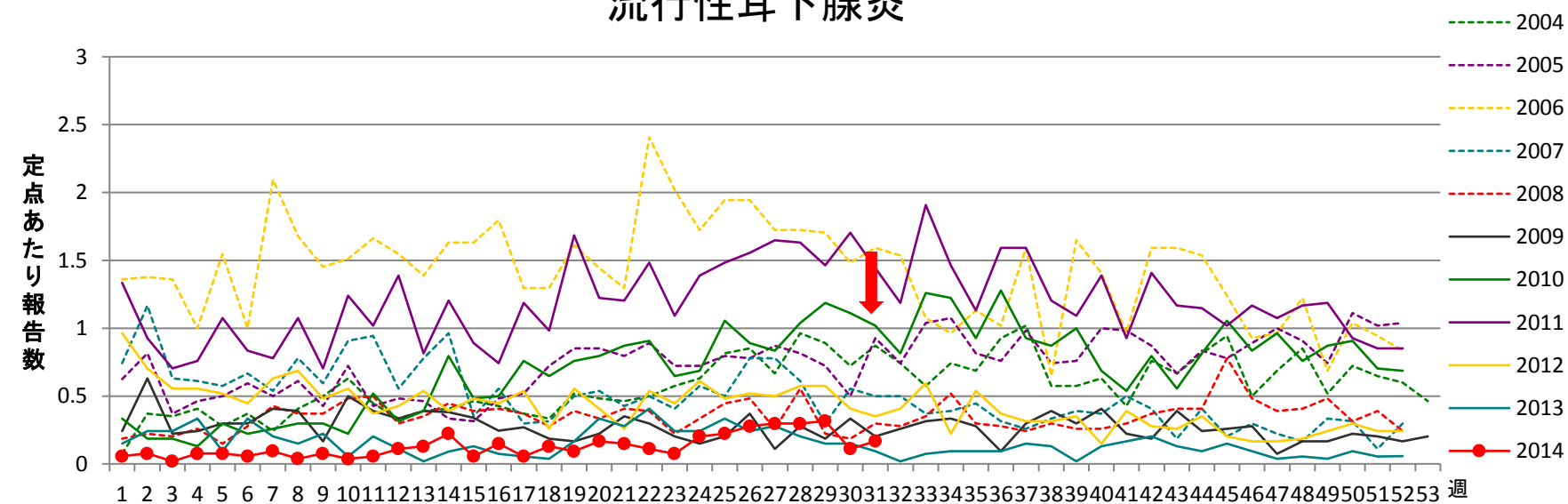
百日咳



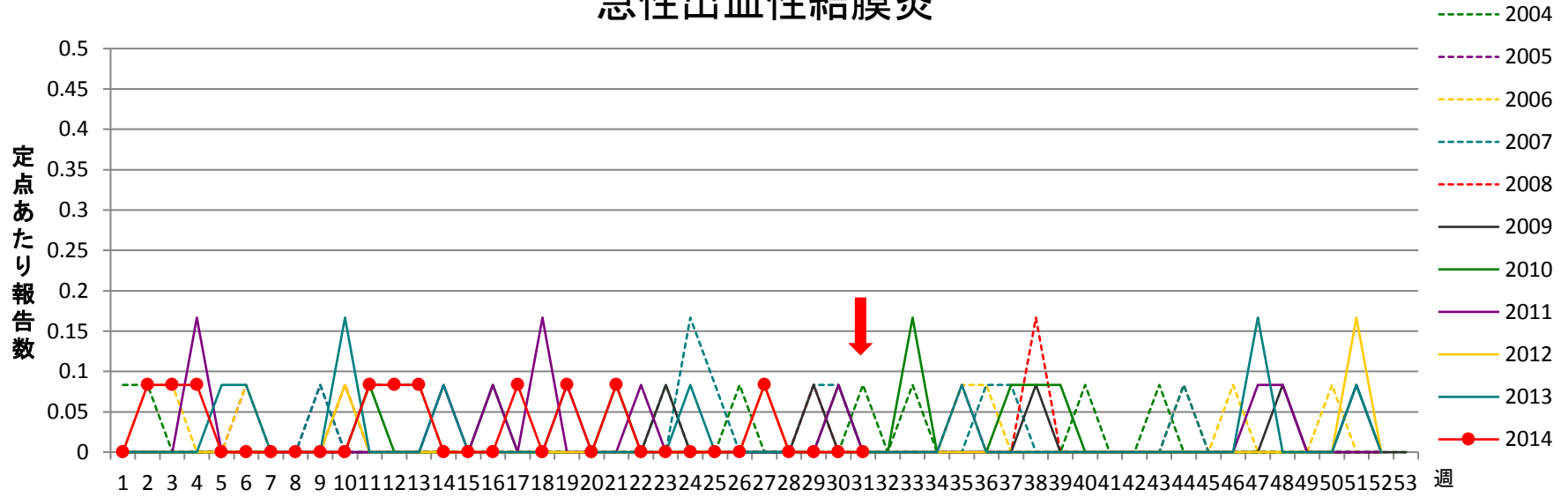
ヘルパンギーナ



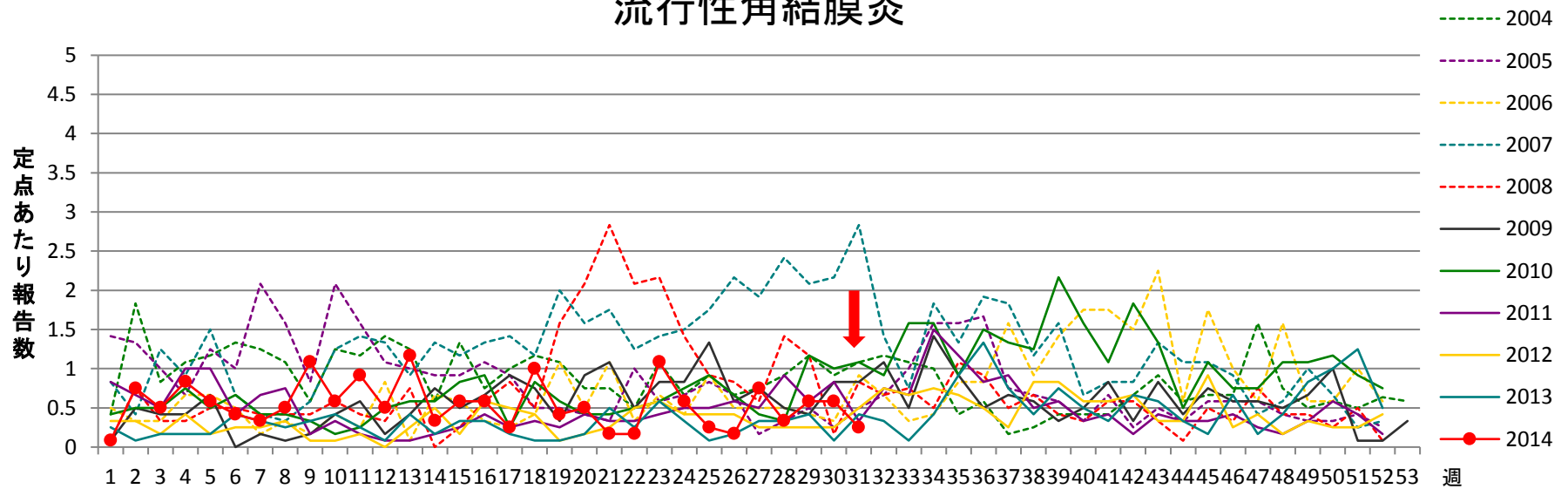
流行性耳下腺炎



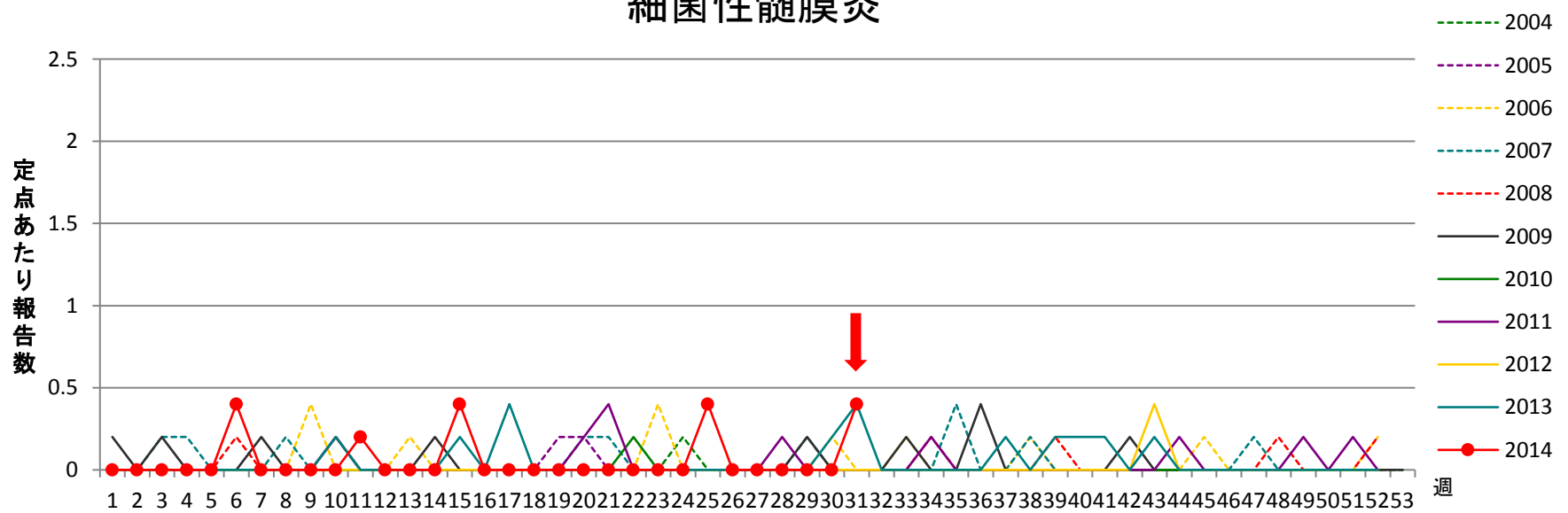
急性出血性結膜炎



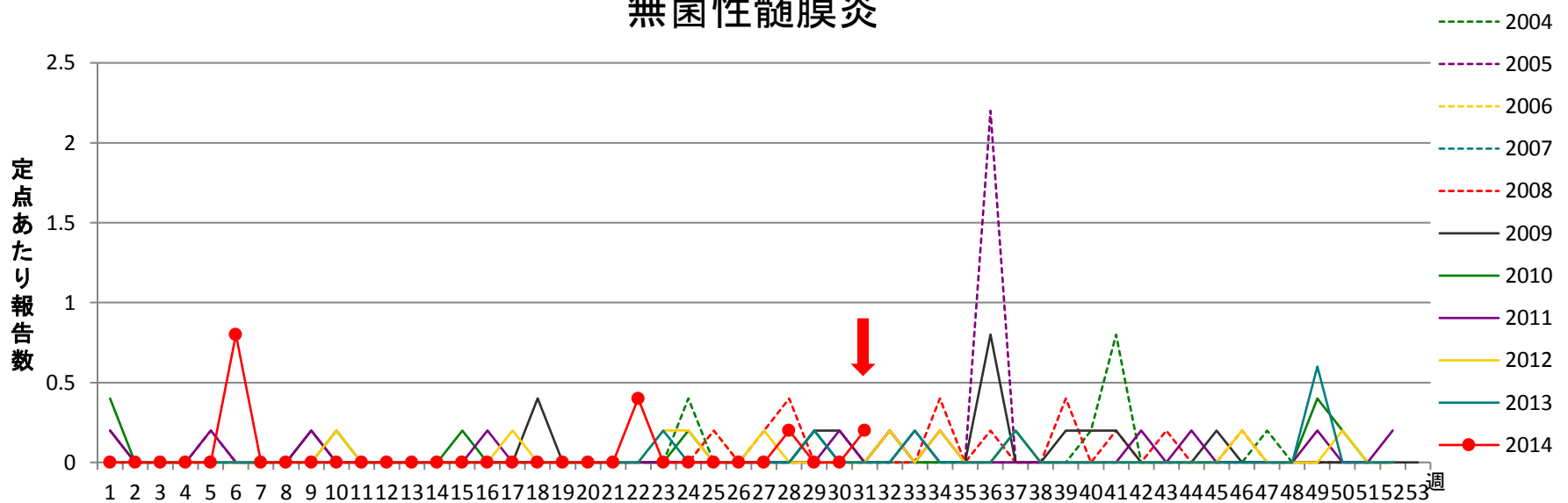
流行性角結膜炎



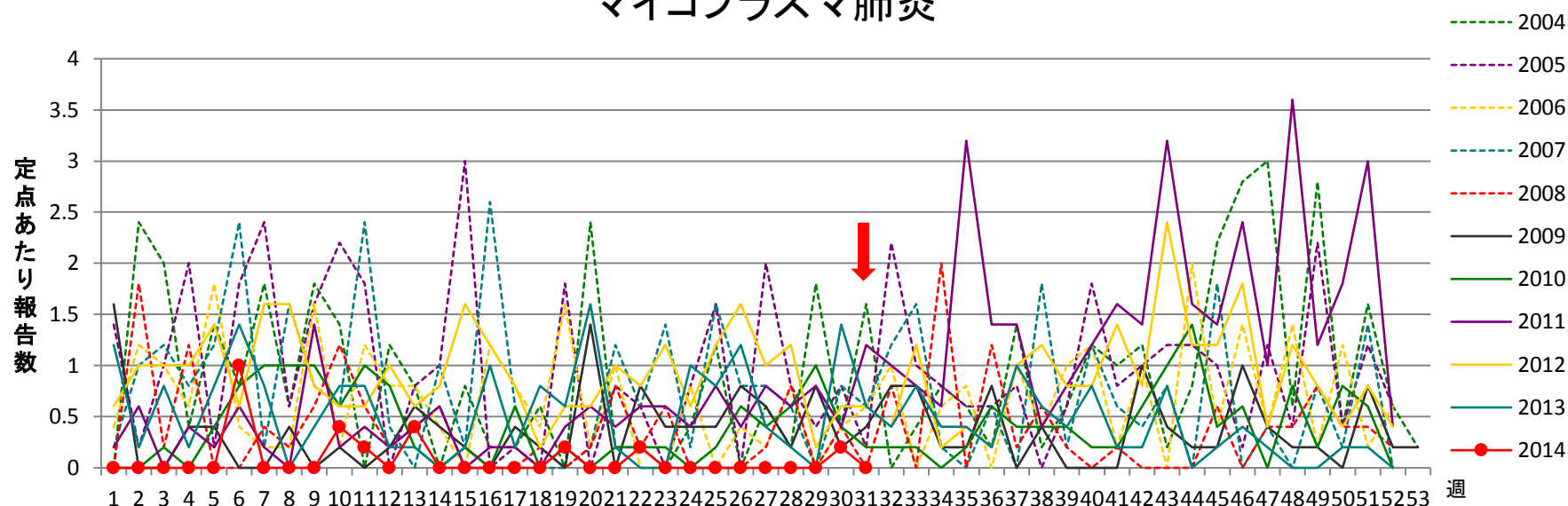
細菌性髓膜炎



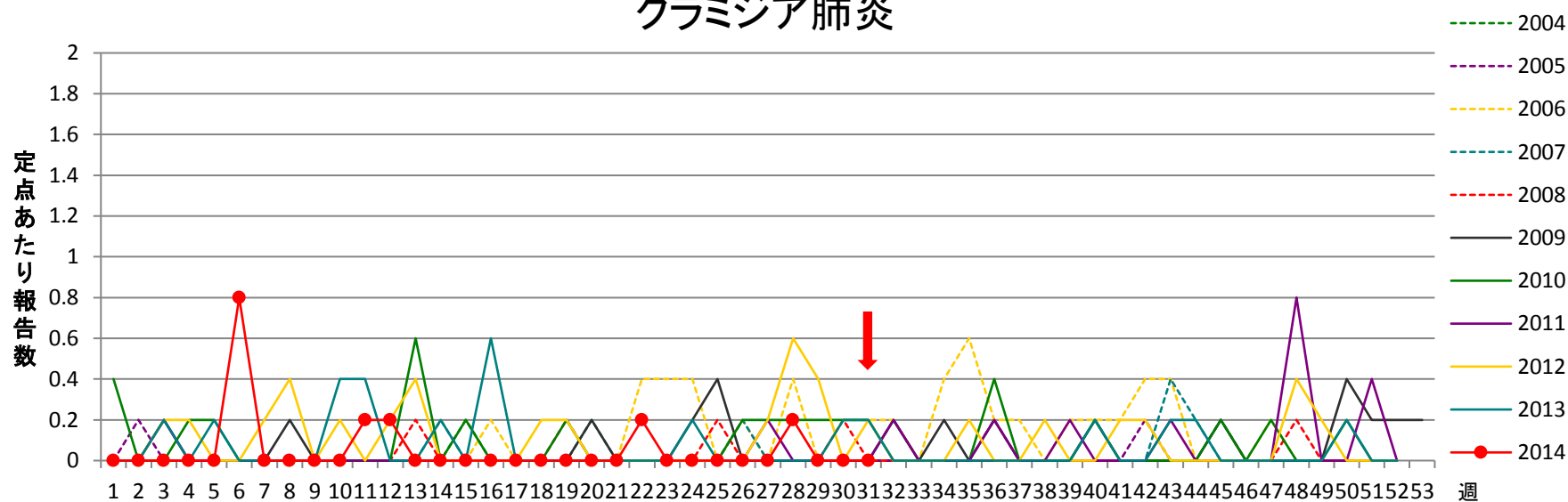
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

